

「臨床検査学教育」は、教員の相互交流を活発にし、臨床検査技師教育施設全体の教育と研究のレベルアップを図ることを目的として発行されている。その目的を達成するため臨床検査学の教育に関する原著論文や報告、資料などを掲載し、教員や大学院生の研究紹介を行っている。

教育学の原著論文は、医学・臨床検査学の研究とは異なり、対象が教育方法であるため、コントロールをきっちり取ることが難しい。現在の教育方法をコントロールとして新しい教育方法を比較検討する場合、その研究を同じ学年の学生を対象に行うとなると、学生を二つのグループに分け、二つの教育方法を同時に実施する必要があるため、大変労力を要する。一方、異なる学年で比較しようとするとも少なくとも1年半以上の時間を要する。従って、教育学の研究には常に綿密で長期的な計画が必要になる場合が多く、大変である。そこで、「原著論文」としてではなく、現在取り組んでいる新しい教育方法を紹介するための「報告」を設けてある。いろいろ工夫しながら新しい教育方法に取り組まれている先生方には、是非「報告」を利用して積極的にその内容をご紹介いただければと思う。

研究紹介では、臨床検査学教育施設で臨床検査

学や医療技術科学の傑出した研究成果を挙げておられる先生方の研究を紹介できればと考えている。第1巻1号では山口大学の市原清志教授に基準範囲に関する研究業績をご紹介いただいたが、この分野の世界の第一人者であり、この4月から International Federation of Clinical Chemistry (IFCC) (臨床検査学の国際組織)の基準範囲委員会の委員長に就任される予定である。そして、本号第2巻1号では、大阪大学の杉山治夫教授に新しく開発された白血病の遺伝子検査法(WT1mRNA 定量検査)とすべての癌に対する免疫療法(WT1 ペプチド免疫療法)をご紹介いただいた。WT1mRNA 定量検査は2007年に保険採用され、欧米でも注目されて広がってきている。そして、WT1 ペプチド免疫療法は現在臨床研究中であるが、ほぼすべての癌に対して有効な治療法となる可能性が高く、その実用化が期待される。

少しずつではあるが世界に誇れる研究成果が臨床検査学教育施設から発信されつつある。将来、臨床検査技師が、単に臨床検査学だけではなく、医療技術科学全体の中心的な研究の担い手として大きく飛躍する日が来るよう、教員並びに教育施設の継続的かつ発展的な質の向上を期待したい。

(平成22年2月9日 編集委員長 岩谷良則)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会  
日本臨床検査学教育学会 学術部  
編集委員会(平成20・21年度)

委員長：岩谷良則(大阪大学)、副委員長：戸塚 実(東京医科歯科大学)、委員：市原清志(山口大学)、江本正志(群馬大学)、奥村伸生(信州大学)、河原 栄(金沢大学)、北里英郎(北里大学)、熊取厚志(千葉科学大学)、森山隆則(北海道大学)、横井豊治(名古屋大学)

### 臨床検査学教育 第2巻1号

平成22年3月1日 発行

発行人：一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

理事長 三村邦裕

〒143-0024 東京都大田区中央3-22-14

(昭和医療技術専門学校内)

Tel. 03-3775-1611 FAX 03-3775-4304

<http://www.nitirinkyo.jp>

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会

E mail : [edit@jamte.org](mailto:edit@jamte.org)

制作：(株)宇宙堂八木書店

〒104-0004 東京都中央区入船3-3-3

Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社：(株)東広社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-3-8

Tel. 03-3409-8803